■主発表者
大野通久（おおのみちひさ）
■所属先
京都橘大学障害学生支援室（サポートリンクス）
■タイトル
障害学生支援で心理職が展開するケースワーク的関わりを考える
■発表概要
障害学生支援では，障害の社会モデルに基づき，学生と環境との間に生じる社会的障壁を特定し，合理的配慮の提供によってその除去を図ることが求められる。一方，そのコーディネートを担う部門の面接が，障害の程度の確認や単なる配慮内容の検討を行うのみに留まるとしたら，学生のニーズが特定され，満たされたと言えるのだろうか。
本発表では，学生が経験する困難への接近法について，京都橘大学障害学生支援室における実践を素材に，面接の場で起こる対人交流の質的側面に注目し，困難への接近や特定を両者が関係をともに歩む過程で生じるものとして捉え，学生自身の人となりや，学生と環境との相互作用を理解する手がかりを得ようとする試みを報告する。
さらに，こうした関わりが社会的障壁の特定や除去，権利擁護とどのようにつながり得るのかを考える。一方，限られた面接時間で深い心理的な出来事に接近することには侵襲性も伴う。関係の中で生じた経験やそれに基づく理解（仮説）を，どこまで学生に提示することが許されるのか。大学生への援助としての意味と価値，および権利擁護との緊張関係を含め，ケースワークのあり方を参加者とともに検討したい。